

# サタデープログラム<sup>36th</sup> ニュース

講座番号 25番 第3部 (14:00~15:30)

## 基礎研究を辞め異分野で上場。

## 人生は楽しい。

講師 柴原慶一さん

医者 株式会社アンビスホールディングス代表取締役 東海高 35 回卒



東海高校を卒業後、名大医学部・京大院医学部に  
通い、医師免許を取得した。その後、ノーベル賞  
を受賞した本庶佑先生の下での研究、自身の研  
究室を主宰した経験を持つ。

その後、起業家としてアンビスホールディング  
スの代表取締役を務め、「医心館」と呼ばれる在  
宅型の療養施設を全国に展開している。医者と  
しての経験を踏まえた事業は世界からまさに  
今、注目されている。医者→基礎研究→代表取締  
役と波乱万丈の人生を送っている。

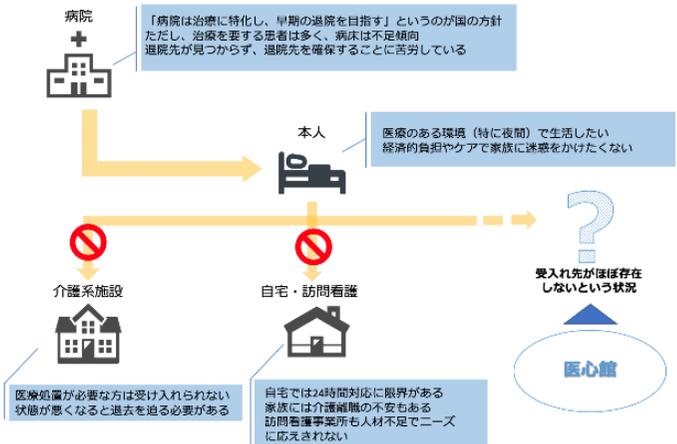
### 医者として、研究者として、起業家として

柴原さんが東海高校を卒業された1983年当時、名古屋大学医学部への進学者は現在よりも少なく、柴原さんは理学部か医学部か迷っていましたが、医学部のほうが希少性の高いと考え、医学部への進学を決めました。「とりあえず、医学部に行くという雰囲気はあの頃もあったし、自分も結局そうでしたね」と、笑いながら振り返っていました。

柴原さんはもともと、「研究者として後世に名を遺したい」という夢を持っていたため、医学部に進学しつつも医者になるという選択肢はなかったといいます。

名古屋大学医学部を卒業後、京都大学大学院へ進み、本庶佑先生の下で研究をするとともに、ご自身の研究室を主宰されていましたが、柴原さんの思い描いていたご自身の姿とは離れていたため、研究の世界から医療の世界に戻られました。

そして、医療に再び関わることにより、右下図のような問題に気付かれました。そして、それを解決するための「医心館」というシステムを考案した。起業家としての第1歩でした。



## 起業家としての精神

柴原さんは、「周りを注意深く観察して、見つかる問題を解決するようなプランを考案する」ことでビジネスが生まれ、起業できると言っています。

しかし、柴原さんには「起業家」になったという意識はあまりなく、自分のできること、やりたいことを突き詰めた結果、今のようになっただけだそうです。

また、「研究者として後世に名を遺す」という夢も全く諦めておらず、築いた資金をもとに若い研究者を援助する財団を作るのが目標で、多忙な日々を生きる原動力になっています。「自分の熱い志を忘れなければ、人生ははるかに *exciting*なものになる。」この言葉に大きく感銘を受けました。

## 後輩にエール

どこの大学に行くか、将来どのようになるのか、不安を抱えている人は多いと思います。しかし、柴原さんのように「何となく」医学部に進んでしまっても、医師免許を武器に挑戦的な生き方をすることができます。だから、

## 自分が興味を持てる学部に行くこと

を柴原さんはオススメしています。結局、自分の情熱が足りないと、どれだけお金を貰えようが、仕事を楽しくやれませんか。

## 当日は…

ここには載せきれなかった「医心館」というシステムの素晴らしさや、医療の現状、医学部からの医者以外の選択肢、「ハングリー」に生きる楽しさ、などなど盛り沢山の内容になっているので是非お越し下さい。

担当: 高校 2H 青地(文責) 高校 2I 竹内

参照 <https://www.amvis.co.jp/business/> 『医療難民を救う「在宅型医療病床」』

